

第1回共同生活援助事業所ハウス・シェアード地域連携推進会議・議事録

令和8年3月7日(土)

10:00~11:00

特定非営利活動法人アップル・シード

代表理事 成瀬 毅

1. あいさつおよび目的説明

地域連携推進会議は、近頃起きた、大規模なグループホームでの虐待案件への対策が大きな理由の一つと思われる。

厚労省「地域連携推進会議の手引き」によると、①「利用者と地域との関係づくり」、②「地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進」、③「施設等やサービスの透明性・質の確保」、④「利用者の権利擁護」が会議開催の目的。

2. 参加者の自己紹介

- ・磯尾まさ子さん(入居者・利用者の親、ハウス・シェアード／ジョブ・シェアードのスタッフ)
- ・水野和正さん(萩山台自治協議会会長、萩山台地域力向上委員会委員長、知的しょうがいの娘の親)
- ・成瀬毅(アップル・シード代表理事、相談支援事業所アンブレラ管理者・相談支援専門員、利用者の夫)
- ・後藤雅人(アップル・シード理事、ジョブ・シェアード／ハウス・シェアードのサービス管理責任者)
- ・MMさん(入居者)

3. 議題①～④+議事録

① 利用者と地域との関係づくり

- ・現状では、八幡台では、毎月の掃除参加や棟費支払い、回覧板を閲覧して情報収集など行なっている。中山ホームでも、町内会に加入して会費を支払い、回覧板の閲覧を通して地域の防災などの情報を得られるようにしている(成瀬)
- ・しかし、グループホーム入居者に起因する漏水事故や素行の問題があると、地域の住民からはクレームや心配の対象となる(成瀬)
- ・一度、この地域の民生委員の集まりに参加し、八幡公民館で、アップル・シードの活動説明や、しょうがいある人の障害特性などについてお話したことがある(成瀬)
- ⇒しょうがいある方は、地域は災害についての防災台帳の記載で知る(水野和正さん)
- ⇒個人情報の範囲はどこまでですか?(成瀬)
- ⇒記載は任意で、とくに避難に関する要配慮情報が欲しいので、身体はじめ避難しづら

い状況を把握する意味が大きい。

⇒萩山は、さくらんぼ学園で年1回のバザーやボッチャ大会、防災訓練をして関わっている
(水野和正さん)

② 地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進

・啓発的なイベントは、アップル・シードはコロナ前まで、少なくとも年1回は行ない、しょうがいに関する講演会や勉強会を開催していた(成瀬)

・今後、ホームページや SNS などを通して、積極的に情報発信していければと思う(成瀬)
⇒とくに理解して欲しいことはない(磯尾まさ子さん、MM さん)

③ 施設等やサービスの透明性・質の確保

・今回は、このような会議を通して、透明性や質について、自己弁護や自己点検だけでなく、「内外」からの率直な意見を聴く機会を設けることができた(成瀬)

・しかし、グループホームは、人の生活区域でもあるので、透明性や質を客観的にするために外部の人が出入りを自由にできるのもおかしな話なので、リニューアルするホームページなどで、情報発信していくことにする(成瀬)

⇒透明性・質を確保する方法は、年1回の会議を行なうことと、コンプライアンスを着実に実施し、指定更新や実地指導に臨んでいくこと。

さらに、利用者さんが発信している要望や苦情などに向き合い、解決していく(成瀬)

④ 利用者の権利擁護

・「ヒヤリハット報告書」や「事故報告書」などのひな形は完備しており、法定の苦情等解決窓口も設置してある。実際は、随時、スタッフがご意見を頂戴している。

・グループホームに勤務するスタッフについて、伝わってくる言動について疑義があれば質問し、改善を図っている。

・より改善を図るために、個別支援計画書などでご意見を聴いていく。

⇒「良かれと思って」でも、簡潔に伝えて、あとは本人に任すことがいい(水野和正さん)

⇒ご本人の独立性には必要(成瀬)

⇒利用者のことをもう少しわかって欲しい。しょうがいについての理解度にバラつきがある(MM さん)

⇒障害特性についての研修をもっとやらないといけない+来年度の研修計画に組み込む(成瀬)

その他ご意見

・ホーム利用者さん、みんなで集まってミーティングした方が良い(磯尾まさ子さん)

・「関係づくり」「理解の促進」・・・気負わないで(水野和正さん)